

8. 職員研修

豊中市立図書館の組織目標に基づき、図書館サービスの基本である資料・情報サービスに関する研修、市民や地域および市の各部局との連携事業に関わる研修、接遇や様々なコミュニケーションに関わる研修などを実施または参加している。実施主体で大きく分けて、豊中市主催の内部研修と、それ以外の外部研修がある。

内部研修としては、新規採用職員研修や人権研修、職階別研修など必須の基礎研修が主で、他に OA 研修や市の各課が行う研修に参加することもある。また、接遇向上に継続的に取り組む必要があるため、コミュニケーションのあり方を見直す研修を開催するとともに、セキュリティ研修やクレーム対応研修など、日頃利用者と対応する上で必要となる内容の研修に参加した。市の施策において目指す方向性の理解を深めるため、「協働」や「学校図書館教育」に関わる研修に参加するとともに、国立国会図書館関西館からの職員派遣によるレファレンス研修を実施し、スキルアップに取り組んだ。

外部研修としては、大阪府立図書館や大阪公共図書館協会・近畿公共図書館協会等主催の図書館サービスに関わる研修、大阪府子ども文庫連絡会主催の児童文化講座、マッセ OSAKA 主催の研修等に参加した。

職員研修所の研修支援制度を活用し、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催の「図書館司書専門講座」に約 10 年ぶりに職員を 1 名送り出す事ができた。

その他、著作権法改正による図書館サービスへの影響を学ぶために、著作権法に関わる研修や、国立国会図書館関西館で行われた障害者サービス研修、レファレンス共同データベースシステムに関わる研修に参加し、日常業務へのフィードバックを目指している。さらに、今後の図書館システムやサービスの動向を考えるために、クラウドに関する研修、デジタルアーカイブに関わる研修、電子書籍に関わる研修にも参加した。各館の業務上の都合もあり、参加できる人数に限られるため、それを補う目的で図書館職員用の情報共有システムを活用し、情報交換を密にして研修記録を共有している。

今後も、業務のスキルアップにつながる研修を充実させるとともに、図書館サービスの今後の展開に関わるテーマについて、人材育成の視点からも研修を充実させていく必要があると認識している。

☆ 平成 22 年度主な研修は、以下の通り。(カッコ内はのべ参加人数)

生涯学習連続講座①人権と社会教育②非営利活動との連携方策③事業を評価する (42 人)

国立国会図書館関西館職員派遣によるレファレンス研修及びデータベース研修 (20 人)

大阪公共図書館協会(OLA)研修…(8人)

「児童サービス研修」

「電子出版時代における図書館の役割」

「公共図書館ブランド化戦略」

「行列のできる講座とチラシの作り方」

大阪府図書館司書セミナー…(7人)

「成田市立図書館の WEB サービス戦略」

「高齢者への図書館サービス」

「電子化時代の図書館における障がい者サービスの展開」

「2009 年著作権法改正と図書館」